



---

都市と地域の人をつなぐ

# 里都(さと)プロジェクト

第四回・里都づくりフォーラム開催レポート

【開催日:2012年4月15日(日)】

---

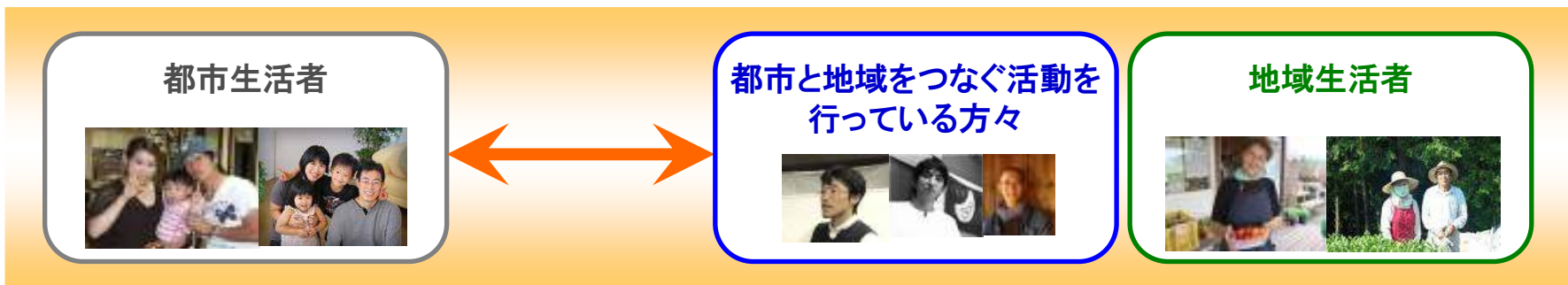
都市と地域の人をつなぐ  
里都プロジェクト

# 「里都(さと)プロジェクト」について

里都(さと)プロジェクトとは、  
「都市」と「地域」との新しいつながり方・関わり方を、実践から学び、考えていくプロジェクトです。

「持続可能な幸せを感じる社会づくり」、重要なキーワードだと思います。  
この新しい社会づくりのためには、「都市」と「地域」との新しい関係性を模索し、先行事例に学び、育んでいくことが重要ではないかと考えています。

そこで里都(さと)プロジェクトでは、  
「様々な地域で、都市と地域をつなぐ活動を行っている方々」と、  
「都市に住み、地域との縁をつくりたいと考える方々」との出会いの場をつくり、  
お互いが学びあい、双方にとって新しい関係性を培うきっかけづくりに取り組んでいきたいと考えています。



## 【里都プロジェクト】

- ・コアメンバー: 大木浩士、有福英幸、濱谷玲子
- ・主な活動内容: ネットワークづくりフォーラムの企画運営、WEBサイト等による情報発信、地域体験ツアーの企画運営、など
- ・WEBサイト: <http://www.satopro.jp/>
- ・お問い合わせメールアドレス: [info@satopro.jp](mailto:info@satopro.jp)

# 第4回・里都づくりフォーラム 開催概要

\*\*\*\*\*

■タイトル： 第四回・里都づくりフォーラム

■ゲスト： 大西義治さん(静岡県富士宮市)

■開催日時： 2012年4月15日(日) 14:00~16:40ごろ (開場 13:30)

■開催場所： 日比谷図書文化館 (住所:東京都千代田区日比谷公園1番4号)

■参加者： 40名

■本日のプログラム内容

- 大西さんから、森の保全の必要性や皮むき間伐の取り組みなどについてお話
- 皮むき間伐体験者からの報告
- 参加者同士の対話、など

\*\*\*\*\*



=====  
特定非営利活動法人・森の蘇り 設立代表者  
=====

コピーライター、プランナーとして東京都内で勤務したのちに  
独立して静岡県富士宮市に帰郷。

富士山麓がヒノキの宝庫であるにもかかわらず、戦後に植林された森の間伐が遅れ、それが  
森林の荒廃や土砂崩れなどの環境問題となっていることを知り、間伐(森づくり)と木材流通  
(木づかい)を両輪とする活動に取り組む。

現在は、誰もが出来る森づくりの手法として「きらめ樹」(皮むき間伐)の普及と、「きらめ樹材」  
の活用を推進中。

# オープニング

参加者は40名。初めての休日開催となりました。冒頭、「里都プロジェクト」発起人の大木から、「プロジェクト設立の背景」について説明をさせていただき、自己紹介の時間を設けました。





# ゲスト:大西義治さんからのお話

第4回フォーラムのゲスト(里都ナビゲーター)、NPO「森の蘇り」代表の大西義治(おおにし よしはる)さんより、日本と世界の森の現状や大西さんが取り組まれている皮むき間伐の活動についてお話をいただきました。



# ゲスト:大西義治さんからのお話



- ・世界と日本の森は、ひと繋がり。
- ・日本は世界2位(68%)の森林率を誇る森林大国。しかし木材自給率は、なんと20%。
- ・海外では原生林破壊の主役は日本。世界最大の輸入国。
- ・国内では人工林が放置され、木々はもやし化、獣の餌もない。
- ・手入れがされていない森には、光が入らない。光が入らないと草が生えず、草木がないから虫がこない。そして動物もいない。

- ・日本では植林より木材の利用を。
- ・木材が利用されず、森が荒れていく。一方で、森の少ない他国から森を奪っている。
- ・荒れた森の10%から出てくる間伐材は、1億m<sup>3</sup>。間伐材だけで日本の木材需要はまかなえ、10年で全ての森は多様な命が共生する森にシフトする。



- ・従来の間伐はプロが行うもの。しかし、森の蘇りが行っている皮むき間伐「きらめ樹」は、だれでもできる間伐の手法。
- ・木の樹皮をむき、木を立ち枯れさせ、木の葉を落として森に光を入れる。立ち枯れした木は水分が抜けるため非常に軽くなる。軽くなった木は運搬がしやすく、加工もしやすい。
- ・「きらめ樹」は間伐するだけではなく、木材の利用までを視野に入れ取り組みを推進している。

- ・木材を余すことなく利用できる「きらめ樹」材。
- ・一般的に、木材は中心を四角く切って製材するので、全体の8割がゴミになる。
- ・「きらめ樹」材は皮がないので、ほぼ100%の利用が可能になる。

- ・皮むき間伐「きらめ樹」なら、誰もが森の手入れ人になれる。
- ・また間伐材を流通・販売させていくことで、新しい雇用の創出にも結びついていく。





立ち枯れし、葉が落ち、森に光が入る。



光が入ると様々な草木が生えてくる。森の命が蘇る。



水分が抜けた木材は、女性でも運ぶことができる。



間伐材の活用。様々な提案を推進中。



# 「きらめ樹」体験者からの報告

皮むき間伐「きらめ樹」体験者の有福さん(里都プロジェクトスタッフ)から、体験の感想や森の様子について報告をいただきました。





# 参加者同士の対話

「大西さんのお話を聞いて印象に残ったこと」などについて、参加者同士で話し合いを行う時間を設けました。



# 皮むき体験

皮のついた木材を会場に用意し、参加者に「皮むき」のプチ体験を行っていただきました。気持ちよく剥ける皮に、皆さん驚きの声をあげていました。





# 森の保全や間伐に取り組んでいる方からの自己紹介

今回参加していただいた方の中で、森の保全や間伐に取り組んでいらっしゃる方から、簡単な自己紹介をしていただきました。



モア・トゥリーズ 水谷さん



KIZARA 石井さん



私の森.JP(グラムデザイン) 赤池さん



森のエネルギー研究所 前保さん

# 対話と質疑応答

